

第11回 野洲市民病院整備運営評価委員会 要録

令和3年5月28日
野洲市民病院整備
事業特別委員会資料

1. 開催概要

- (1) 日時：令和3年5月17日（月）午後1時30分～3時30分
- (2) 場所：野洲市役所本館3階 第一委員会室
- (3) 出席委員：上本委員長他 計11名（うち2名リモート参加） 欠席委員計2名
- (4) 出席職員：栢木市長、川口副市長、市立野洲病院福山病院長 他

2. 議題

(1) これまでの病院整備の経過について（資料2 P.1～13）

○これまで進めてきた病院整備の経過及び整備方針転換とその課題等を説明。

(2) 立地場所選定条件に一致する候補地について（資料2 P.14～23）

○市民病院のあり方（案）等を説明し、3候補地の選定にかかる課題整理を報告。

(3) 野洲市民病院整備運営評価委員会への諮問にかかる提案について（別紙）

○市議会からの提案の経緯を説明し、検討してきた駅前Aブロックの課題整理を報告。

【委員からの主な意見等（要旨）】

○立地場所の選定方法について

- ・基本構想や都市計画マスタープランなど、市として今まで積み重ねてきたものに対して住民のニーズを把握しながら、今後どうしていくのかという表明するべきである。
- ・早期整備が必要という点から、令和7年度を開院目標とするのであれば、Aブロックで再度検討するのもいいのではないか。
- ・どこに病院を建てるのかというのはこの次で、むしろ市が考えるべきことであり、3候補地について委員が優先順位をつけるのは本来すべきでない。ここでの意見はあくまでも参考として聞いた中で、最終的には市が判断するべきである。
- ・候補地の選定は住民目線で意見集約し、市民が一丸となって議論すべきであることから、ここで決定するのは難しい。
- ・駅前Aブロックを諮問内容に追加するというのはあくまで、特別委員会からの提案であり、参考として扱うべきである。

（委員長のコメント）

- ・本日の評価委員会は各委員の意見を聴く場所である。医療・建設の専門家及び市民代表の意見を列記して、28日の市議会の特別委員会に提出する。各委員から、新しい野洲市民病院のあり方を議論いただき、またそれを踏まえた上で立地候補場所に関しての意見を伺いたい。
- ・先の特別委員会からの提案は議長から正式に提案され、それを受けて議長から市長に正式に提案されたものである。したがって市長の諮問機関である当評価委員会においては、他の案と同様に駅前Aブロック案を評価しなければならない。

○市民病院のあり方（案）について

- ・地域包括ケアシステムの構築には時間がかかることから、現在の駅周辺よりも遠方で病院を整備する場合、医療圏の再構築が難しいことが想定される。
- ・この（案）に基本的に賛成であるが、透析をどうするのか、また、新型コロナウイルスのようないつ起こるかわからない新興感染症に対応できる医療体制を整えるために、病棟構成やベッド数をどうするのか等は、考えていく必要はある。

- ・この（案）について、正しいと考える。他の病院や開業医の先生と連携し、この構想を進めるには、交通機関、財政の問題も含めて、立地場所としてどこが相応しいか決めることになる。
- ・この（案）は非常にリーズナブルだと思う。訪問看護ステーションや訪問リハビリテーションは病院とコラボレーションすることが非常に重要であり、市民のために前向きに考えるべきである。

○各候補地について

- ・駅前Aブロックでの病院整備は、経営的にも患者が集まりやすく、職員の確保という面からも有利であり、地域包括ケアシステムの核にもなる。
- ・新しい病院が機能するまでのスピードは非常に重要であり、これまで検討してきた駅前Aブロックは一旦設計しており、ベースがあるため、有利である。
- ・少子高齢化社会を背景に、コンパクトシティ化が重要視されている中で、駅前Aブロックでの病院整備はにぎわい、活性化につながり、立地適正化の推進、補助金の面でも有利である。
- ・郊外の2候補地は市街化調整区域であり、手続きに時間がかかる。また、遺跡の包蔵地の範囲であるため、調査にも時間がかかり、貴重な遺構等が発掘されれば、この土地での事業を中止しなければならない可能性が高い。
- ・利便性が高いということは、患者、その家族にとってもメリットが大きいため、駅前に早期に病院整備することが望ましい。
- ・野洲市の大きな都市計画、都市戦略に合致していることが大前提で、その議論を経て、これまで駅前での整備計画が進められてきたと理解している。
- ・駅前Aブロックでの病院整備はダウンサイズしながら、進めれば、一番早い。また、駅前Bブロックで整備する場合、面積的に建物を収容できるのかという点については、現野洲病院の建物の2ブロックあるうちの1ブロックがちょうど収まる大きさであり、建築配置計画の観点からは可能と言える。
- ・公共交通の再編をしなくてもよいという点においても、駅周辺での整備が望ましい。
- ・駅前は利便性が高いという意見も多いが、現在の野洲病院を見ても、多くの患者が車で通院しており、必ずしも駅に近いほうがよいとは言えない。
- ・立地場所の選定には、公共交通機関（特にバス）の整備も含めて、一体的に考える必要がある。
- ・3つの候補地は「帯に短し、たすきに長し」であり、駅前に病院があってもおかしくないまちにしていけばいいと思うので、いい加減早く整備を進めてほしい。
- ・交通の便がよく、気軽に行ける病院を早く作ってほしいというのが一般市民の願いである。家族がいない人や車を運転できない人でも、気軽に病院に行けるよう、整備を進めるべきである。
- ・現在の病院は老朽化や耐震構造不備の点で、入院患者の療養環境としては限界の時期と考えられ、昼夜懸命に地域医療を守っていただいている職員のためにも、これ以上長期化することは避けるべきであるが、3つの候補地それぞれに課題があるため、早期整備という観点から、駅前Aブロックでの病院整備を再度検討すべきではないか。
- ・駐車場を確保できる条件でダウンサイズを行い、急性期を減らし、慢性期・回復期リハさらに健診に主力を移すのであれば、駅から徒歩が可能な駅前Bブロックが最適である。また、経費の節減が出来て、現実に維持可能な収益性が見込めるときのみ、駅前Aブロックが最適と考える。